

令和2年5月7日

●道三非我父「(斎藤)道三は我が父に非ず」

～漢文否定語「非」と「不」の用法について～

①NHK大河ドラマは、前半部分のいよいよ佳境(興味がそそられる状況)、ヤマ場に入ってきました。5月3日放送のタイトルは、「道三は我が父に非(あら)ず」でした。漢文を学習している皆さんは、「非(あら)ず」とルビをふられなくても大丈夫ですよ。勿論、意味は、「道三は私の父ではない」という意味です。

②この「非」を書き下し文にするのが、本当に皆さん不得意です。ここで、あらためて、「非」の用法をおさらいしましょう。

③『漢文必携』によると、「不」が主に用言を否定するのに対し、「非」は、主に体言を否定するとあります。

④不至(→至らず)、不美(→美しからず)、不静(→静かならず)と、「至る(動詞)」「美し(形容詞)」「静かなり(形容動詞)」を否定するのに対し、「非物」(物にあらず)の方は、「物(体言)」を否定します。

⑤「不」も「非」も「返読文字」ですね。必ず、下から返って訓読し

ます。皆さんのウィークポイントは、この返り方を理解しない、覚え
ないことです。受験生の苦手箇所=出題頻出箇所

⑥「不」は、日本語の文語文法に従い、打消の助動詞「ず」とする
ので、「不」の下の用言は、必ず「未然形」にして上に返ります。

⑦一方、「非」の送り仮名の「～に」はなんですか。これは、断定
の助動詞「なり」の連用形「に」です。断定の助動詞は、体言や
連体形にしか接続しません。そして、意味は「～ではない」です。

⑧繰り返します。

★「不+用言の未然形」

★「非+体言+に」です。送り仮名は、小さく書いてあるので、

我々の扱いも小さくなりがちですが、「送り仮名」を強く意識
する、送り仮名まで覚える、ここそがカギです。

⑨「非」自体は、ラ変動詞「あり」+打消助動詞「ず」の複合形
です。訓読での工夫が詰まった独特な読み方です。

⑩ところで必ず、不が用言、非が体言を否定するわけではあり
ません。

⑪「不」が体言を否定する場合は、送り仮名に「～ナラ」「～アラ」
を補います。『史記』の「四面楚歌」で項羽が「時不利」と詩を

詠みました。この訓読は「時に利あらず」でしたね。

⑫一方、「非」が用言を否定する場合は、「用言」を連体形にし、
+「モノ(コト)」+「に」の形にして返ります。

例:「非落」を書き下し文にしてみましょう。

→「落つる(こと)に非ず」となりますね。「落ちる」ではありません。「落つ」はタ行下二段活用動詞、連体形は「落つる」。

⑬ところで、冒頭の語を「道三は我が父ではないのである。」と
したら、訓読はどうなりますか。

a 道三 我父。 → 道三は我が父。

b 道三 我父也。 → 道三は我が父なり。

c 道三 非我父。 → 道三は我が父に非ず。

d 道三 非我父也。 → 道三は我が父に非ざるなり。

⑭dの形も皆さんはとても苦手です。「断定」の助動詞にあたる「也」が文末につき、語調を強める形です。

⑮「あら+ず」の「ず」の部分は、断定の助動詞「なり」に接続するために「連体形」の「ざる」と活用します。

⑯理解する、頭に入れるというのは、このような理屈を理解することです。文法はれっきとした「きまり」「論理」です。なんとなく

ではありません。合理的なのです。文法を避ける人に「合理的」な世界を極めることはできません。避けずにやってください。決して難解な論理ではありません。

⑰そして、「理屈」と言いながら矛盾するようですが、「理屈」の前に、体で覚えさせることです。つまるところ、「音読」です。

⑱だまされたと思ってとにかく「音読」してください。特に漢文習得の第一歩は「音読」です。

⑲音読に励む→ 漢文を制す→ 受験の国語を制す という流れは本当です。森鷗外も、夏目漱石も、あの物理学者の湯川秀樹博士も皆、幼少期、漢文の「^{そどく}素読」から始めています。意味がわからずとも、声に出して読む、そこから始めていました。

⑳高校生の皆さんは、意味も一緒に考えながら音読すればいいのです。

㉑2014年センター試験の第一問(評論文)は、「漢文脈と近代日本」で、漢文がいかに私たちの血肉となり、思考を形づくっているかを論じています。

㉒「そんなの関係ない」と思った途端、私たちの前に『バカの壁』(養老孟司著の書名にもなっています)が立ち塞がり、世界は小

さく分断されます。今回のコロナ禍は多くの不自由をもたらしていますが、一方、たっぷりとある時間は、全ての世界がつながっていることを教えてくれます。少し時間をとって「音読」し、漢文の「語法」もながめてみてください。

②③ところで、『舞姫』の冒頭では、「あらず、…」が繰り返されます。「あらず、これには別に故あり。」(いや違うそうではない、これには別の理由がある)と繰り返し、豊太郎の「人知らぬ恨み」の理由を容易に明かそうとせず、読者を「引っ張る」しかけをこの表現は担っています。

②④^{みやび}雅な和文と歯切れよく格調高い漢文訓読を織り交ぜながら、『舞姫』の物語は進行します。“『舞姫』朗読”と検索すると、朗読が音声で味わえます。1時間ほどです。配付の現代語訳を見ながら、「朗読」を聞くのも面白いかと思います。

②⑤さらに、『舞姫』の映画もスマホで見ることができます。郷ひろみさんが豊太郎役です。原作とは違う部分もありますが、衣装やベルリンの町並みなどは上手に再現されています。冒頭には、あの「蒸気船」が描かれています。さらっと画像をながめて、雰囲気を感じるのも十分です。是非アクセスしてください。予習として。